

氏 名	金 基 守
学位(専攻分野)	博 士 (学 術)
学 位 記 番 号	博 甲 第 176 号
学位授与の日付	平成 10 年 11 月 24 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
研 究 科・専 攻	工芸科学研究科 機能科学専攻
学 位 論 文 題 目	第 2 次世界大戦前後の日本近代建築における「日本的表現」に関する 基礎的研究
審 査 委 員	(主査) 教 授 河 邊 聡 教 授 日 向 進 教 授 西村征一郎

論 文 内 容 の 要 旨

本研究は、第 2 次世界大戦中及び戦後の日本建築における近代化の過程を考察するなかで、伝統建築と近代建築との葛藤を「日本的表現」という問題から論考したものである。本研究が主とする対象は、第 2 次世界大戦を挟む時期に行われた四つの建築設計競技の入選作品とそれをめぐる建築批評家の論評である。

論文は序を含めて 4 章から構成されている。

序では、研究の意義と目的、関連既往研究及び論文の構成を示し、加えて本論を展開する上で関連の大きい戦前の日本近代建築における「日本的表現」について概観している。

第 1 章では、戦中に行われた二つの競技設計、「大東亜共栄圏建設記念競技設計」及び「在盤谷日本文化会館競技設計」の入選案を通じて、「日本建築の様式」における具体的な表現について考察している。

第 2 章では、戦後まもなく行われた「広島平和記念カトリック聖堂競技設計」及び「広島平和記念公園及び記念館競技設計」のそれぞれの入選案について、「日本的表現」がどのように考えられていたかを考察している。更に第 1 章での戦中の「日本建築の様式」と本章で考察された「日本的表現」とを比較し論じている。

第 3 章では、戦後の日本建築界に現れた「民族・伝統」の意識の背景について考察している。また西洋の建築家が日本建築界の動向及び「日本的表現」をどのように見ていたのかについて、逆に日本の建築家たちは西洋建築の潮流及び「西洋近代建築」をどのように見ていたのかについて考察している。さらに 50 年代のなかばに起こる日本建築の「伝統論争」を考察し、戦前・戦中・戦後を通じての日本建築における「日本的表現」の連続性と不連続性について考察している。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、日本の建築家たちが第 2 次世界大戦の戦中と戦後に意識していた「日本的表現」についての研究である。まずそれぞれの時期での「日本的表現」がどのようなものと考えられていたのかを整理している。戦中については、大東亜共栄圏建設構想にかかわる「日本的表現」についての論争の背景には、「英米中心的世界観」から「日本中心的世界観」への転換の意識があり、そこには新たな「日本建築の様式」創造の意識があったこと。また戦後については、建築が社会の状況に対応しながら変化してはいるものの、「日本的表現」を必要とする意識は、戦後も変わっていないこと。しかしその内容には幾つかの問題を含んでいたこと。例えば伝統建築と近代建築、「記念性」にかかわる民族意識があったこと。また戦後の日本建築界で「伝統」あるいは「日本的表現」の問題が取上げられるのは、西欧近代建築界の影響であ

ること。そして日本の建築界は、西欧の建築家による「日本建築」評価を重要視するようになったこと。各時期の特徴をこのように纏めた上で、それを連続したものとして繋ぎ、日本の近代建築が世界入りをする土台は、戦中の建築にあり、その結果が戦後の建築に現れたと結論づける。各時期への論証は的確であり、従来時期別の考察で留ることが多かった中で、本研究での、それらを歴史的に縦に繋ぐ志向は貴重であり、また的を得ているといえる。

さらには、この「日本と西洋」というテーマ設定は、近代の日本だけの問題ではなく、近代国家を目指した外のアジア諸国にとっても同じく重要な問題であったこと。なかんずく日本建築の発展過程と密接な関係下にあった韓国の近代建築を理解するためには重要な視点を与えるもの、としている。韓国近代建築における合理主義・機能主義は日本の植民地時代に始まる。韓国の近代建築を単純な二分法図式で考えると、日本化（日本的表現）＝近代化（日本化した近代建築）、の図式になり、韓国の近代建築考察にあたっては、「韓国と西洋」の関係だけでは捕らえきれないことになる、と本論文の結果を踏まえて考察し、今後の研究課題としている。本研究の成果はアジア諸国の近代建築研究にとって、重要な基礎研究となるものと評価する。

本論文にかかわる公表学術論文は4編である。いずれも審査制度のある論文集であり、単著のもの1編、筆頭著者のもの3編である。

○金基守、河辺聡「第2次世界大戦中の日本建築界における「世界史的立場」の意味について」、日本建築学会第2回アジアの建築交流国際シンポジウム論文集、pp.83-86、1998年9月

○金基守「1940年代 日本建築에 나타난 “日本的表現”에 관한 考察

— 2次 世界大戦 前後의 主要懸賞設計를 中心으로 —

"Japanese Style" among the Japanese Modern Architecture in the 1940's]

大韓建築学会論文集、第116号、pp.95-103、1998年6月

○金基守、CHO, Yong-soo「제2次 世界大戦 戦後 日本建築의 動向에 관한 考察

— 한국과 일본의 근대건축비교를 위한 基礎的研究(1) —

Focused on the analysis of the Japanese Architecture Trends around the World War II.

— A Basic Study for the Comparision of Modern Architecture between Korea and Japan]

大韓建築学会論文集、第108号、pp.31-41、1997年10月

○金基守、河辺聡「第2次世界大戦後の広島平和記念の二つの競技設計に於ける「日本的表現」— 広島平和記念カトリック聖堂、広島平和記念公園競技設計に於ける日本的表現 —」、日本建築学会計画系論文集、投稿再査読中

この外に参考論文4編がある。